

Housing Market News

2018 vol.4

3|16 ▶ 4|19

東京ガス株式会社
営業第二事業部<http://biz.tokyo-gas.co.jp>今月の
トピック解説

TOPIC

住宅の省エネ基準義務化に黄色信号？

国土交通省は、2016年4月から開催してきた「住宅・建築物のエネルギー消費性能の実態に関する研究会」の取りまとめを公表した。同研究会に参加した委員からは、住宅の省エネ基準義務化について、肯定的な意見よりも、むしろ否定的な意見の方が多く聞かれ、住宅の省エネ基準義務化に向け黄色信号が灯り始めていると言えそうだ。

義務化は一足飛びで拙速の声も

同研究会がまとめた実態調査によると、2015年度における住宅の省エネ基準の適合率は全体で46%であることが明らかになった。一定の規制がある大規模建築の97%と比べると低い水準にとどまっている。多くの委員は、この調査結果について「概ね実感と合っている」と述べた。

今回の取りまとめでは、委員の意見などをもとに住宅・建築物等の省エネ基準への適合率向上に向けた課題も整理した。住宅の省エネ基準の義務化に肯定的な意見とし

2015年度における省エネ基準への適合率

	大規模	中規模	小規模		全体	
			共同	戸建		
住宅	36%	44%	51%	46%	53%	46%
建築物 (住宅以外)	97%	94%	69%		93%	

て「省エネ基準への適合を義務化すると、義務付けられた水準が必ず達成されるというメリットがある」といった声を紹介。

一方で、住宅の省エネ基準の義務化は時期尚早であるという立場を取る委員の声としては、「小規模の住宅・建築物の設計・施工を担う中小の工務店や設計事務所等には省エネ基準や省エネ計算等に習熟していない者が相当程度いる状況であり、その中で省エネ基準への適合が義務化されると、これらの事業者の業務に大きな支障が発生するおそれがあり、現時点での義務化は一足飛びで拙速である」といった声が聞かれた。

今月の
トピック解説

TOPIC

戸建の天井高競争が加速、3m超えも

ハウスメーカーによる戸建住宅の天井高競争が激しさを増しており、天井高3mを超えるこれまでにない提案が出てきている。

大和ハウス工業では、2014年に発売した高価格帯の戸建住宅「xevo Σ (ジーヴォシグマ)」に2m72cmの天井高を採用。積水ハウスも高天井の取り組みを強化、鉄骨住宅の高価格帯の「イズ・シリーズ」で2m74cmの天井高を標準仕様とした。こうしたなか、三井ホームは大手ハウスメーカーの住宅商品のなかでは最も高い3mの天井高を標準とした最高級価格帯の戸建住宅新商品「LANGLEY (ラングレー)」を発売した。

普及価格帯へも波及

また、ユニバーサルホームも今年4月に発売した戸建住宅新商品「LAVISTA (ラビスタ)」で、天井高3m超えの提案を行っている。1階のリビングの天井高を3m70cmとすることで、吹抜けのような開放感を提案。新商品の最大の目玉としている。「LAVISTA」の坪単価は40万円と、ボリュームゾーンをメインターゲットとした商品だ。都市部狭小地の住宅のニーズが増す中で、今後は他のハウスメーカーでも高い天井高を仕様とするケースが増えてくる可能性があるという。

NEWS

今月の主なニュース

3|16

4|19

- ▶ [ミサワホーム スマートウェルネスまちづくりの第一弾が完成](#) 医療・介護・保育・商業・安心・住居などを包括的に提供
- ▶ [レオパレス21 管理物件へのオープン型宅配便ロッカーの導入が50棟を突破](#)
- ▶ [LIXIL ベーシックな機能に絞り込んだ宅配ボックスを提案](#) 優れた施工性を発揮 5万円以下の求め安い価格を実現
- ▶ [ハウステック 業界最大級の収納力を実現したシステムキッチンを開発](#) 意匠と機能を追求した独自の人工大理石製シンクを搭載
- ▶ [積水ハウス 国際的なCO2削減イニシアチブの認定を取得](#) 住宅業界では国内初
- ▶ [クリナップ 自動洗浄機能付き換気扇をリニューアル](#) ファンボックスを小型化し対応範囲を拡大